九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[009] 九州大学附属図書館研究開発室年報 : 2004/2005(9)

https://doi.org/10.15017/2833

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2004/2005 (9), pp.1-63, 2005-06-01. 九州大学附属図書館研究開発室
バージョン：
権利関係：

報　告

アクロス福岡展示会報告

「シーボルトがみた日本」～「NIPPON」「日本植物誌」「日本動物誌」そして福岡の人々～

山口　良子*

〈抄　録〉

平成17年２月８日から13日まで、アクロス福岡（福岡市中央区天神）で開催された展示会「『シーボルトがみた日本』～『NIPPON』『日本植物誌』『日本動物誌』そして福岡の人々～」の実施報告。

Across Fukuoka exhibition report.

「Japan as seen by Siebold ～"NIPPON" "Flora Japonica" "Fauna Japonica" and the Fukuoka people～」

YAMAGUCHI Ryoko*

１　はじめに

平成17年２月８日から13日まで、アクロス福岡（福岡市中央区天神）で開催された「『シーボルトがみた日本』～『NIPPON』『日本植物誌』『日本動物誌』そして福岡の人々～」は、平成16年度の九州大学開学記念行事として開催され好評を博した「シーボルト『日本』」の展示を受けて企画された。

この展示会は、平成16年３月に九州大学附属図書館と福岡県立図書館の間で結ばれた相互協力協定を機に、福岡県立図書館・アクロス福岡との共催により開催されたもので、両図書館が所蔵している「NIPPON」初版本を比較展示するというものであった。展示会開催に際し、長崎大学附属図書館、シーボルト記念館（長崎市鳴滝）、シーボルト協会（独・ヴュルツブルク）の協力を得ることが出来た。

九州大学附属図書館作成のポスター

２　展示会～準備から開催まで

展示会の開催にあたり、九州大学附属図書館では、図１のような体制で臨んだ。

第１回の実行委員会が平成16年６月に開催、会場の確保は８月、第１回展示会WGは８月末であった。

展示図版の選定、キャプションの作成、会場の展示レイアウトまで「展示会WG」メンバーが主体となって行った。

10月には、九州大学の社会連携事業計画に採用され財政支援を得られることが決定し、実施に弾みがついた。

広報については、市政だよりへの掲載、福岡市営地下鉄「おでかけ案内ポスター」への掲載依頼、ポスターの市内各所への掲示のほか、チラシ配布、記者発表など、様々な媒体を模索し力を入れた。同時に、九州大学附属図書館は九

*やまぐち　りょうこ　九州大学附属図書館コンテンツ整備課図書情報係（〒812-8581　福岡市東区箱崎6-10-1）E-mail: yamaguch@lib.kyushu-u.ac.jp

実行委員会
福岡県立図書館と会合を持ち連絡調整を行う
・九州大学４名
・（課長１・課長補佐１・専門員２）
・県立図書館３名
（課長２・係長１）

展示会推進委員会
実行委員会の報告を受け、展示会に関する助言と体制づくり
部長１・課長３・課長補佐１
専門員２・掛長３

展示会WG
展示会の企画から展示会実施まで実務を行う
専門員１
掛員７（中央館５・医学分館２）

図１．体制

州地区大学図書館協議会加盟館約80館へ案内し、福岡県立図書館は公共図書館ネットワークを利用して福岡県内公共図書館約80館へ広報した。その後、新聞数誌へ開催前と開催中に写真（図版）入り記事が掲載されたが、展示会終了後「２月のベスト展」という新聞記事で取り上げられたことは、特筆すべき点であろう。

展示期間中は両機関から受付、会場要員等連日10名程度で担当し展示会の円滑な運営に努めた。

展示に関しては、九州大学所蔵の「NIPPON」は全て未製本の状態で保存されていたため、図版を一堂に展示出来ることが利点であった。県立図書館の蔵書「NIPPON」「日本植物誌」「日本動物誌」は製本されているので、現物展示とともにパネル展示・電子化した図版のパソコンでの閲覧も行われた。

子供向けの企画として、簡単なクイズを用意し、回答者には、賞品として展示図版の絵はがきを用意した。また、記念スタンプを作成して、

展示会場設営の様子

回答一覧にスタンプ欄を設けた。展示図版の絵はがきは、アンケート回答者への謝礼としても利用され好評だった。

会場のBGMとして、シーボルトが作曲した「日本のメロディ」（『お雇い外国人の見た日本～日本洋楽事始』前田健治演奏, キングインターナショナル、2001収録）を流していたが、これについて「シーボルトが本当に作曲したのですか」と、質問していかれた方も少なくなかった。

展示期間中に行われた講演会、谷口治達教授（九州造形短期大学学長）「シーボルトと絵師たち」とWolfgang Michel教授（九州大学教授）「シーボルトの日本観－日本のシーボルト観」は、アクロス福岡「文化であい塾」の一環として開催され、当方の広報に加えて、アクロス福岡がイベント誌を作成し文化施設等に配付するなどの広報が行われた。聴講希望者は、用意された座席の110席を大きく上回り、ご来場いただいたにも関わらずお断りすることになったことは、大変悔やまれる。

アクロス福岡が作成したポスター

展示会用に作成した絵はがき

開催中の会場の様子

3　おわりに

今回、学外しかも福岡市天神という都心部で展示会を行うという初の試みであったが、展示会は６日間で約2,500名の来場者があり、アンケートには、お褒めの言葉と、今後も同様の企画展示開催を望む声が多数寄せられた。

「展示物が多くて、１日では足りない」という感想もしばしば耳にした。会場の広さに対する適正な展示量については、今後の検討課題である。また、大学の市民開放と社会貢献を継続してゆくという観点から、新たな企画を求められている。同時に大学が所有する多くの資料を図書館に留まらず、博物館あるいは各部局も含めた社会貢献事業として連携できれば、その使命がより効果的に果たせると考える。

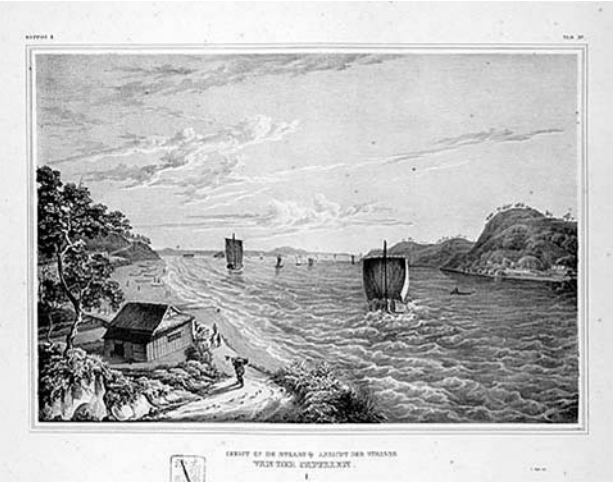
最後に、この展示会は、多忙な業務の合間を縫ってご協力いただいた多くの方々のお力添えで、無事終える事が出来た。このことを深く感謝し、結びの言葉としたい。

I-５b（12）長崎港と湾の眺望

II-５e（128）従者を連れた身分の高い日本人

「NIPPON」図版より

同じ図版が、県立図書館の蔵書では、従者の脚の片方が彩色されておらず、背景に九州大学蔵書にはない雲が描かれている。一口に初版と言っても、書誌学的見地から言えば、差異があることがこの図版を比較すると一目瞭然である。



II-15d（102）関門海峡の景